

# FULUHASHI EPO REPORT 2019



●発行・お問合わせ先

**フルハシEPO株式会社**

〒460-0022

愛知県名古屋市中区金山1丁目14番18号

A-PLACE金山6階

TEL:052-324-9088 FAX:052-324-9188

<http://www.fuluhashi.co.jp/>



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。



# 環境で未来をクリエイトする

## Make the world better

フルハシEPOは、地球環境の視点から真に必要なものを  
お客様の企業価値向上に役立つ製品、サービスとして創り出し、  
子どもたちが安心して暮らすことのできる  
持続可能な社会の実現を目指します。

### Contents

- 02 ▶ 編集方針
- 03 ▶ トップメッセージ
- 05 ▶ フルハシEPOグループの経営理念
- 07 ▶ フルハシEPOの事業概要
- 09 ▶ フルハシEPOグループの事業概要
- 11 ▶ 特集1 フルハシEPOは70年以上にわたり循環型社会の構築に貢献しています
- 13 ▶ 特集2 クリーンなエネルギーの創出を通じて低炭素社会の構築に貢献しています
- 15 ▶ 環境報告
- 19 ▶ 社会性報告
- 21 ▶ 会社概要

#### 編集方針

本レポートは、フルハシEPOグループの理念と事業の現状および環境や社会の取組みの年次報告書として、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを推進することを目的に発行しています。

参考ガイドライン	環境報告ガイドライン2018年版
報告対象範囲	フルハシEPOグループ ※環境報告および社会性報告のデータはフルハシEPO単体のデータです。
報告対象期間	2018年4月1日～2019年3月31日 ※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。
発行	2019年7月(次回2020年7月予定)
免責事項	本レポートには、当社の過去と現在の事実だけでなく、将来に関する予測・予想・計画なども記載しています。これらは、記述した時点での情報に基づいた仮定ないし判断であり、不確実性が含まれています。したがって、将来の事業活動の結果や将来に生じる事象が本レポートに記載した予測・予想・計画とは異なったものとなる恐れがあります。読者の皆様には、以上をご承知くださいますようお願い申し上げます。

## 木質資源の有効利用のパイオニアとして 地球環境と社会の持続可能な発展に貢献します

当社は製材製函業として創業し、設立70年余りの歴史のなか、木質バイオマス資源の有効利用を通じて循環型社会の構築に貢献してまいりました。現在は木質系廃材からリサイクルチップを生産し、紙やパルプ原料のほか、ボードなどの建材等に有効利用していただくほか、建設現場から生まれる様々な副産物や木質系以外の再資源化などのソリューション事業を展開しています。多くのお客様に高い品質と安心・安全・安定なサービスをお届けするために、今後はさらに対応エリアを拡大していきます。

近年は、「植林からエネルギーまで」を方針として再生可能エネルギー事業にも取組み、2011年2月に神奈川県で川崎バイオマス発電所が稼働、2019年10月には愛知県でCEPO半田バイオマス発電所が稼働します。今後も木質バイオマスを中心に温室効果ガス削減に貢献するエネルギー事業を推進し、生産時のエネルギーについても、順次再生可能エネルギーに切り替えてまいります。

2015年に国連総会において「持続可能な開発目標(SDGs:Sustainable Development Goals)」が採択されたことにより、また2016年のパリ協定の発効を受けて、各国の政府や企業がサステナビリティの取組みを加速しています。当社はフルハシEPOレポートの中でESG(Environment(環境)・Social(社会)・Governance(企業統治))などの非財務情報を開示し、様々なステークホルダーとのコミュニケーションを推進し、資源循環事業を通じて、国際社会の目標達成に貢献します。

当社は「世のため 人のため 地球のため 社員のため 持続可能な社会を創造する」を経営理念としています。コーポレートガバナンスを高め経営の透明性、法令遵守、高い倫理観を基盤として、社員一人ひとりが創造力をもって「高い安全性、高い生産性、高度な環境技術」を追求できる環境づくりを推進します。そのために、社員の健康や安全に関する取組みを最優先に進めています。

業界のリーディングカンパニーとして、様々なステークホルダーの皆様にご意見をいただきながら、木質バイオマスを中心として資源の技術・サービス・ソリューションを通じて社会課題を解決し、未来を創造すべく、挑戦を続けてまいります。

2019年7月



代表取締役社長

山口直彦

# フルハシEPOグループの経営理念

当社は健全な経営を行う企業として、以下の経営理念を掲げて事業を遂行しています。

**世のため 人のため 地球のため 社員のため  
持続可能な社会を創造します**

経営理念を実現するために、以下の行動指針を掲げ、カードとして携帯するとともに唱和しています。

FULUHASHI Spirits  
世の中にあって必要か?  
正しいか?  
環境にやさしいか?

自ら未来を創造する

1. 新しい可能性にチャレンジし、持続可能な社会を実現します。
2. お客様の立場に立って考え、ニーズに応えます。
3. プラス発想と行動力で付加価値を高めます。
4. 知性・技術・感性を育て、使命感を持って仕事に取り組みます。
5. 豊かなこころでユーモアを忘れず仕事を楽しめます。

## フルハシEPOは「グローバル・コンパクト」に参加しています

当社は、2005年から国連グローバル・コンパクトに賛同し参加しています。グローバル・コンパクトは、1999年の世界経済フォーラムにおいて、当時国連事務総長であったコフィー・アン南が企業に対して提唱したイニシアチブです。グローバル・コンパクトは企業に対し、人権・労働権・環境・腐敗防止に関する10原則を順守し実践するよう求めています。

当社は2015年に国連サミットで採択されたSDGs(持続可能な開発目標)(p.6)とのかかわりを含め、透明性や健全性、倫理性のある事業活動を推進することで、グループ経営にグローバル・コンパクトの精神を取り込んでいます。



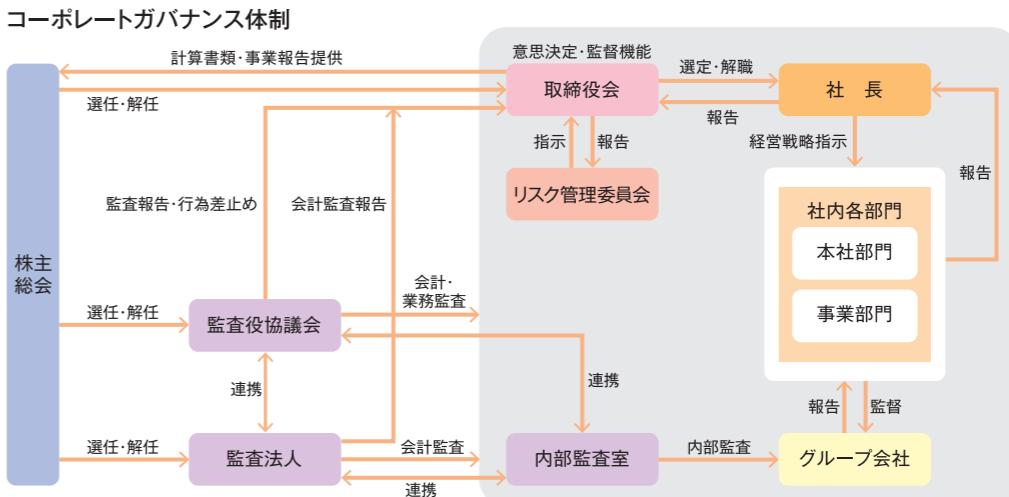
# コーポレートガバナンス

## コーポレートガバナンスの基本的な考え方

当社は持続的な成長および中長期的な企業価値の向上を目指すとともに、法令遵守と経営の透明性を確保するため、経営と執行に対する実効性の高い監督機能を確立し、様々なステークホルダーの信頼に応えることのできるコーポレートガバナンス体制の構築を重視し、さらなる体制の向上に継続して取組んでいきます。

## コーポレートガバナンス体制の特徴

- 2017年より社外取締役を選任、取締役7名中2名を社外取締役とする体制としています。
- 取締役の経営責任の明確化と経営の監督機能を強化しています。
- 2019年より社外監査役を選任、監査役協議会を設置し、経営の適法性および健全性を監査します。



## TOPICS

### SDGsとのかかわり

SDGs(持続可能な開発目標/Sustainable Development Goals)は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないこと(leave no one behind)を誓っています。

当社は、SDGsに関する社員の理解を向上させ、当社の事業とかかわりの深い項目について、経営と一体化した社会課題の解決を進めてまいります。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



# フルハシEPOの事業概要

フルハシEPOは、環境ソリューション事業(木質バイオマス<sup>\*</sup>および建設副産物のリサイクル・環境物流)そしてエネルギー創出事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。

\*生物資源(bio)の量(mass)を表す概念で、一般的には「再生可能な、生物由来の有機性資源で化石資源を除いたもの」を示す。

## 環境ソリューション事業

### 木質バイオマスのリサイクル(バイオマテリアル事業)

製造業や建築現場から排出される「木質廃棄物」を、当社は収集運搬ネットワークと最先端の技術を駆使し、これらから木質リサイクルチップを生産しています。木質リサイクルチップは、紙・パルプ原料のほか、ボードなどの建材または化石燃料を代替する木質バイオマス燃料として効率的に活用されています。

このように当社は、木質廃棄物の収集、分別、そしてリサイクルチップへと一貫したシステムを確立することにより、地球環境の保全に貢献しています。

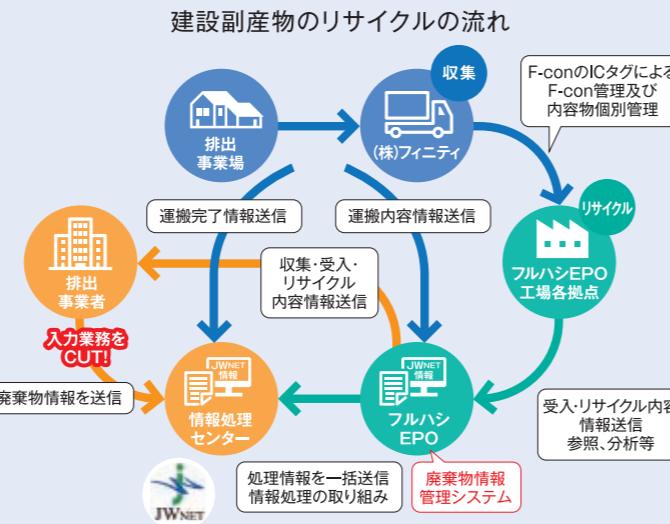


### 建設副産物のリサイクル(資源循環事業)

新築現場において、ひとつの建物が完成するまでに、様々な資材の副産物が生まれます。当社は、それらを徹底的に選別し、リサイクルすることで資源の有効利用を図ります。

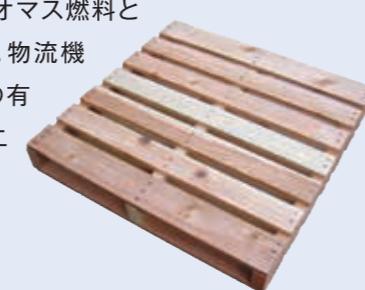
当社の建設副産物リサイクルシステムは、自社開発の廃棄物情報管理システム「エリオット」により、効率のよい収集とコストダウン、リサイクル率の向上を実現します。

また、新築現場から出る廃材のリサイクル事業も展開しています。木もプラスチックもサーキュラーユニバーサルでゼロエミッション推進企業へ発展していきます。



### 環境に配慮した物流機器(環境物流事業)

フルハシEPOは、環境優先の視点から国産材を有効活用し、日本の森林再生・保護、林業の活性化を推進しています。リサイクル資源の分別から効率的回収まで考慮した物流機器の製造販売、中古物流機器の買取や販売もしています。破損したパレットもリフォームすることにより再利用を行います。リサイクルできないパレットは木質資源として



## エネルギー創出事業

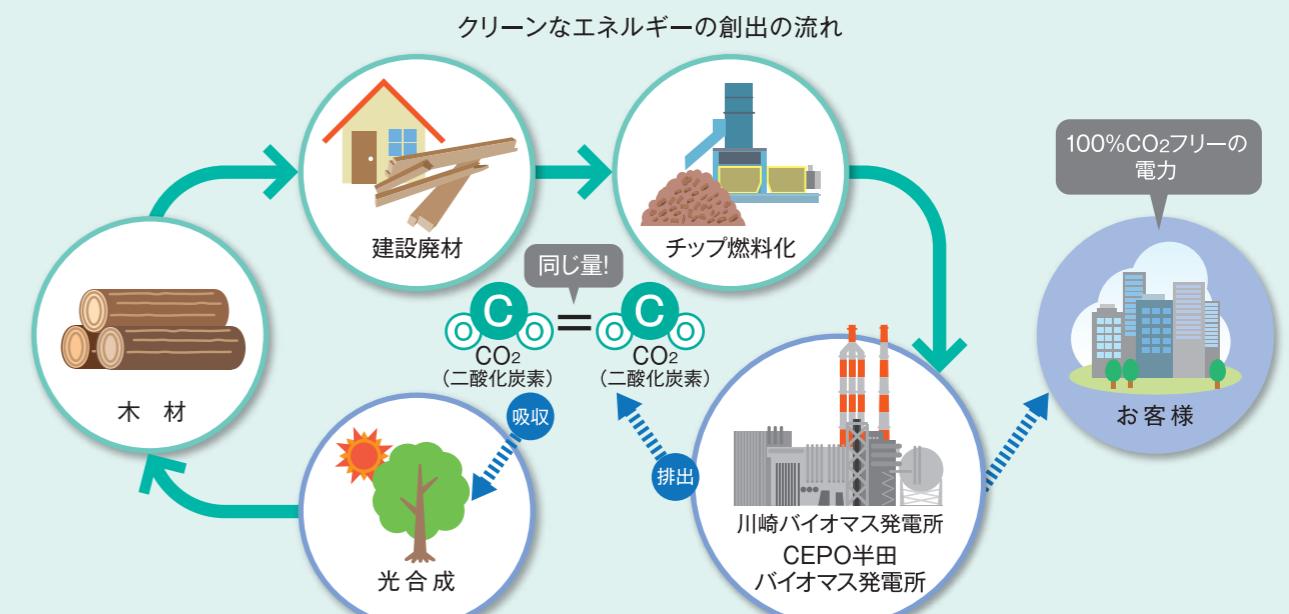
### クリーンなエネルギーの創出

当社が住友共同電力株式会社、住友林業株式会社と共に共同出資している川崎バイオマス発電所(川崎バイオマス発電株式会社)は、石油・石炭などの化石燃料を使用せず、木質バイオマス燃料を利用するバイオマス専焼発電設備です。木質バイオマス燃料として、周辺地域で発生する建設廃材から作られた木質チップ、樹木の間伐材、剪定枝などを利用しています。

木質バイオマスを燃焼するとCO<sub>2</sub>が排出されますが、

植物の成長過程で光合成により大気中のCO<sub>2</sub>を吸収するので、排出と吸収によるCO<sub>2</sub>のプラスマイナスはゼロになります。このような炭素循環は「カーボンニュートラル」と呼ばれ、大気中のCO<sub>2</sub>の濃度上昇の抑制に貢献します。

また、当社は2017年には総合エネルギーサービスを行う株式会社シーエナジーと、2017年4月に愛知県半田市で特別目的会社「CEPO半田バイオマス発電株式会社」を設立しました。※詳細は特集2(P.13-14)をご覧下さい。



### TOPICS

#### 愛知ブランド企業として認定されました

愛知県では、県内製造業の実力を広く国内外にアピールし、愛知のものづくりを世界的ブランドへと展開するため、県内の優れたものづくり企業を「愛知ブランド企業」として認定しています。

当社は、木質バイオマスの可能性を追求し地球環境の未来を創造する木材チップメーカーとして、愛知ブランド企業に認定され、2018年2月9日の認定式において認定書を授与されました。



# フルハシEPOグループの事業概要

フルハシEPOグループは、バイオマテリアル・資源循環・環境物流の3事業を通じて、持続可能な社会の実現に貢献しています。

## 株式会社 フルハシ環境総合研究所

株式会社フルハシ環境総合研究所は、企業の持続可能な経営をサポートするコンサルティング会社です。「CSR※1/SDGs※2推進」「環境経営支援」「環境人材育成」「BCP策定・運用」などの分野で様々なソリューションを提供しています。

また、環境省、愛知県、名古屋市などの行政の事業も支援しています。

※1 企業の社会的責任  
※2 持続可能な開発目標。2015年9月の国連サミットで採択された。

### 企業のSDGs活用をサポート

SDGs(持続可能な開発目標)は、2030年に向けて17の目標・169のターゲットを設定し、すべてのセクターに行動を要請しています。フルハシ環境総合研究所は、企業が優先して取組むべき社会課題を特定し、事業戦略と一体化して取組みを推進するための講演やワークショップを行っています。

2019年2月26日には新宿区立環境学習情報センターにおいて、SDGsの行動指針であるSDGsコンパスの活用方法や体験型シミュレーションを実施しました。

### 行政支援

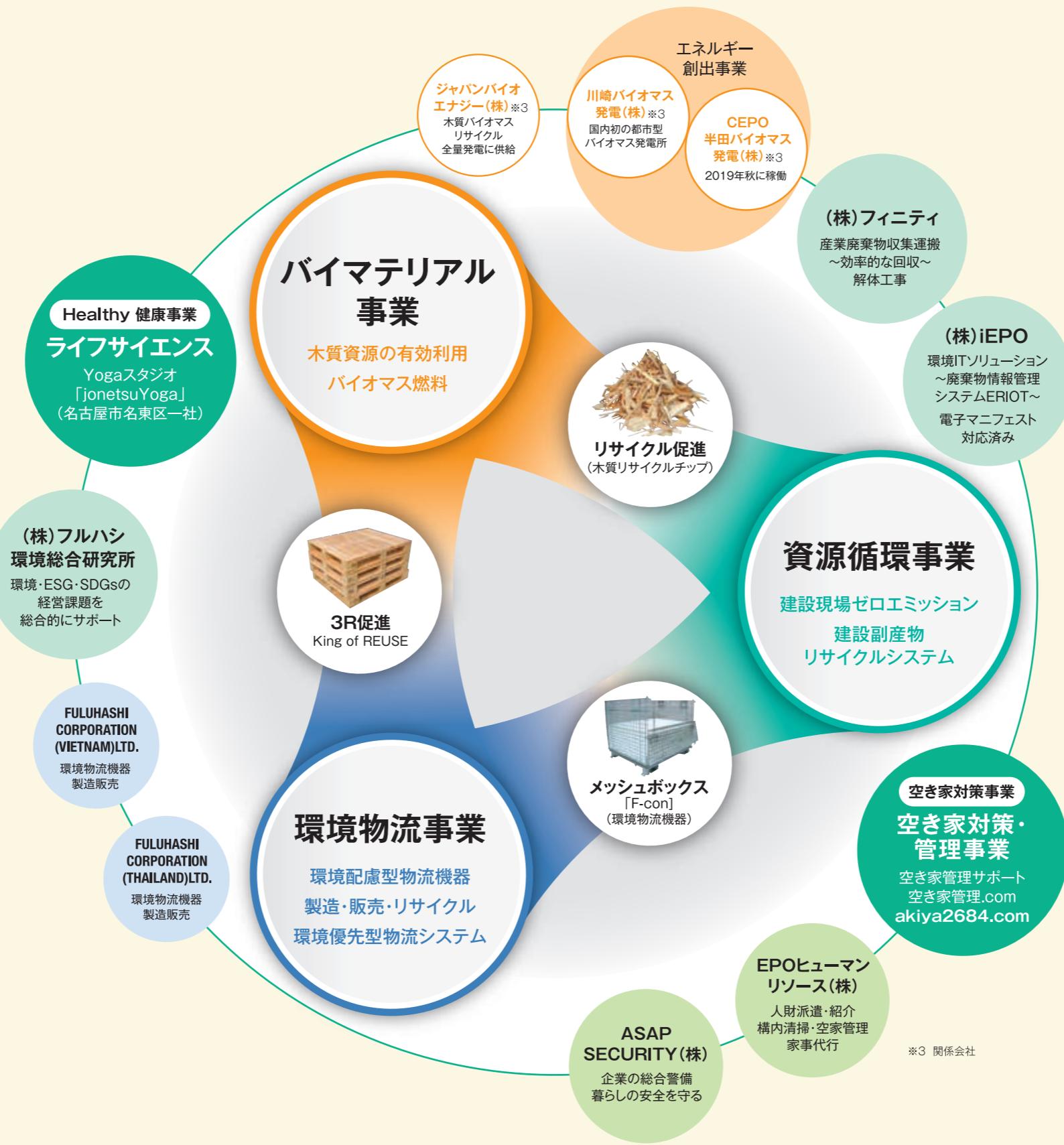
2018年度、フルハシ環境総合研究所は愛知県環境局の事業を企画・実施するなどサポートしました。

その一例として、愛知県民向けの海洋ごみ問題啓発動画「知ってる?あいちのうみのコト」を企画・制作しました。

また環境教育分野では、愛知県内の中高年・シニアを環境学習講師に育成する研修(あいちecoティーチャー養成校)を企画・運営しました。



海洋ごみ問題啓発動画



## 株式会社フィニティ

株式会社フィニティは、家屋などの解体工事、収集・運搬および再生利用を行っています。

一貫したリサイクルシステムにより、産業廃棄物を的確に処理しています。

### 解体工事

解体工事は安全で迅速、かつ騒音や振動を極力抑え、しかも経済的に行う必要があります。フィニティは事前の調査を入念に行い、解体に必要な工程や工法はもちろんのこと、安全対策、騒音振動対策などを適切に計画し、施工いたします。また、産業廃棄物のゼロエミッション化につとめます。



解体工事の様子

### 再生利用

独自のシステムによる効率的な収集により専用工場に集められた木質廃棄物は、パルプ用・燃料用チップとして生産され、コンクリートガラは再生砕石として、また廃プラスチックはリサイクル燃料として生まれ変わります。当社は高度な技術力で廃棄物のリサイクルを推進し、現場ゼロエミッションに取組んでおり、住宅メーカー様や建築会社様からもご好評をいただいております。



専用工場外観

# 特集1 | フルハシEPOは70年以上にわたり循環型社会 の構築に貢献しています

フルハシEPOは、独自の技術で、日本の木質系バイオマスのリサイクルを黎明期から支えてきました。業界トップクラスの技術と環境への貢献に対する情熱は脈々と受けつがれ、エネルギー創出事業など、新たな展開を生み出しています。



## 特集2 | クリーンなエネルギーの創出を通じて低炭素社会の構築に貢献しています

フルハシEPOグループは、地球温暖化をはじめとする環境保全への取組みを重要な経営課題のひとつに位置づけています。具体的な取組みとして、国内2カ所でバイオマス発電事業に参画し、再生可能エネルギーの供給を通じて地球温暖化の防止、ひいては低炭素社会の構築に貢献しています。

### CEPO半田バイオマス発電所

当社は地球環境にやさしい再生可能エネルギーの供給を目的として、総合エネルギーサービスを行う株式会社シーエナジーと、2017年4月に愛知県半田市で特別目的会社「CEPO半田バイオマス発電株式会社」を設立しました。

CEPO半田バイオマス発電株式会社は、建設廃材など由来の木質リサイクルチップとバーム椰子殻を燃料とする出力50,000kWのバイオマス発電所を愛知県半田市に建設中であり、2019年10月に運転を開始します。



CEPO半田バイオマス発電所 完成予定図

**発電出力 約50,000kW(発電端/想定)**  
**年間発電量 一般家庭の約119,000世帯分(想定)**  
**CO2排出削減量 年間約15万トン(想定)**

### フルハシEPO株式会社 愛知第七工場(半田)

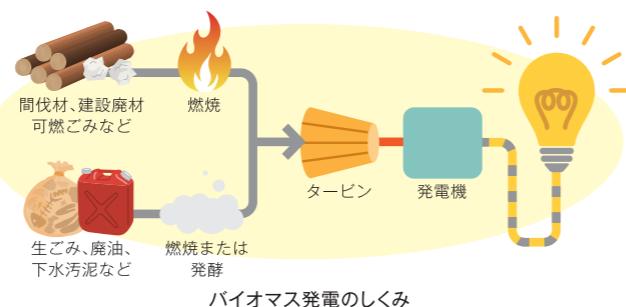
CEPO半田バイオマス発電所で燃料として使用される木質バイオマスの安定供給体制確立のため、2019年3月、愛知県半田市内に木質バイオマスチップ供給施設である愛知第七工場(半田)を開設しました。木質廃材を収集・分別・リサイクルし、CO2フリーの発電燃料を供給することで、廃材のトレーサビリティを明確化します。



### バイオマス発電とは

バイオマス発電は、木質資源をはじめとする生物由來の資源(バイオマス)を燃料とする発電です。バイオマス発電は、太陽光発電や風力発電のように発電量が天候の影響を受けることはなく、通常の火力発電と同様に安定した電力を供給することができます。

バイオマス燃料を燃焼することでタービンを回し、発電機を動かすことで発電を行います。



### CO2フリーとは ~カーボンニュートラル~

CO2フリー電気とは、CO2を実質排出せずに発電された電気のことです。代表的なものとして再生可能エネルギーを利用した発電(太陽光、風力、水力発電など)が挙げられます。

植物を燃やすとCO2が排出されますが、植物の成長過程では光合成により大気中のCO2を吸収するので、排出と吸収によるCO2のプラスマイナスはゼロになります。

このような炭素循環を「カーボンニュートラル」といい、大気中のCO2の濃度上昇を抑制します。



川崎バイオマス発電所外観



バグフィルター

### 川崎バイオマス発電所

当社が住友共同電力株式会社および住友林業株式会社と合併で設立した川崎バイオマス発電株式会社は、2011年2月に運転を開始しました。

川崎バイオマス発電所は、京浜工業地帯の中心である川崎市の臨海地域に位置し、関東一帯から収集した木質チップを燃料として、周辺の工業地帯に環境にやさしい電気を供給しています。

川崎市の厳格な環境基準をクリアするために、排煙脱硫装置や排煙脱硝装置、バグフィルターなどの設備を備えています。

**発電出力 約33,000kW(発電端)**  
**年間発電量 一般家庭の約38,000世帯分**  
**CO2排出削減量 年間約12万トン**

### ジャパンバイオエナジー株式会社

ジャパンバイオエナジー株式会社では、周辺地域で発生する木質廃材をチップ化し、隣接する川崎バイオマス発電所にバイオマス燃料を供給しています。

周辺地域から収集された木質廃材は、工場で分別・破碎されます。

破碎されたチップはチップスクリーンを通じて大きさが

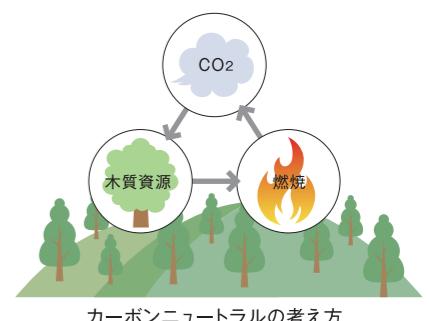


ジャパンバイオエナジー(株)外観

整えられ、磁力選別機で混入する鉄くずなどを除去された後に川崎バイオマス発電所の木質燃料建屋に直接コンベアで投入されます。チップの運搬が不要になることで、輸送時に排出されるCO2などの量も削減されます。



生産され積み上げられた燃料チップ



## 環境報告

## 環境マネジメント&amp;パフォーマンス報告

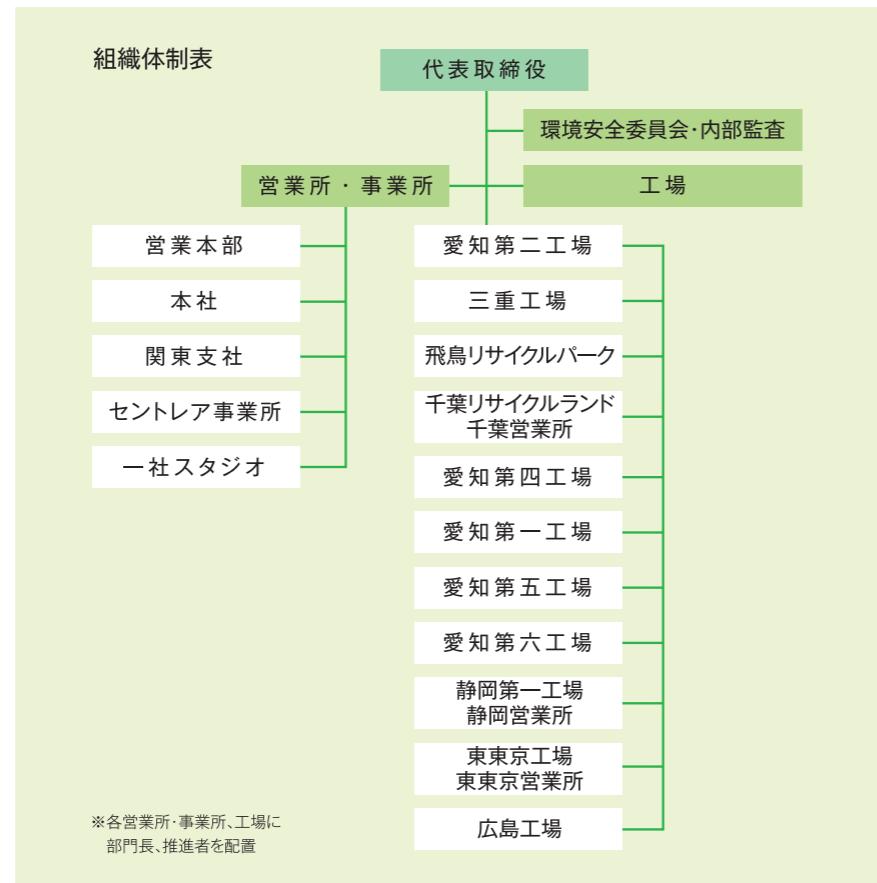
エコアクション21(EA21)に基づく環境マネジメントを推進しています。

## 環境マネジメント

エコアクション21(EA21)は、環境省が策定した環境マネジメントシステム(EMS)です。環境活動を継続的に改善する手法(PDCA)に基づき、組織や事業者などが環境への取組みを自主的に行うための方法を定めています。

フルハシEPOは、環境マネジメントを継続的に推進するためにEA21を導入し、組織、役割および責任を定めています。

2019年5月現在、5営業所・事業所、11工場の合計16拠点で運用を行っています。



## 環境安全委員会

フルハシEPOの環境・安全活動を全社に浸透・共有させるために、月に1回環境安全委員会を開催しています。



## エコアクション21更新審査

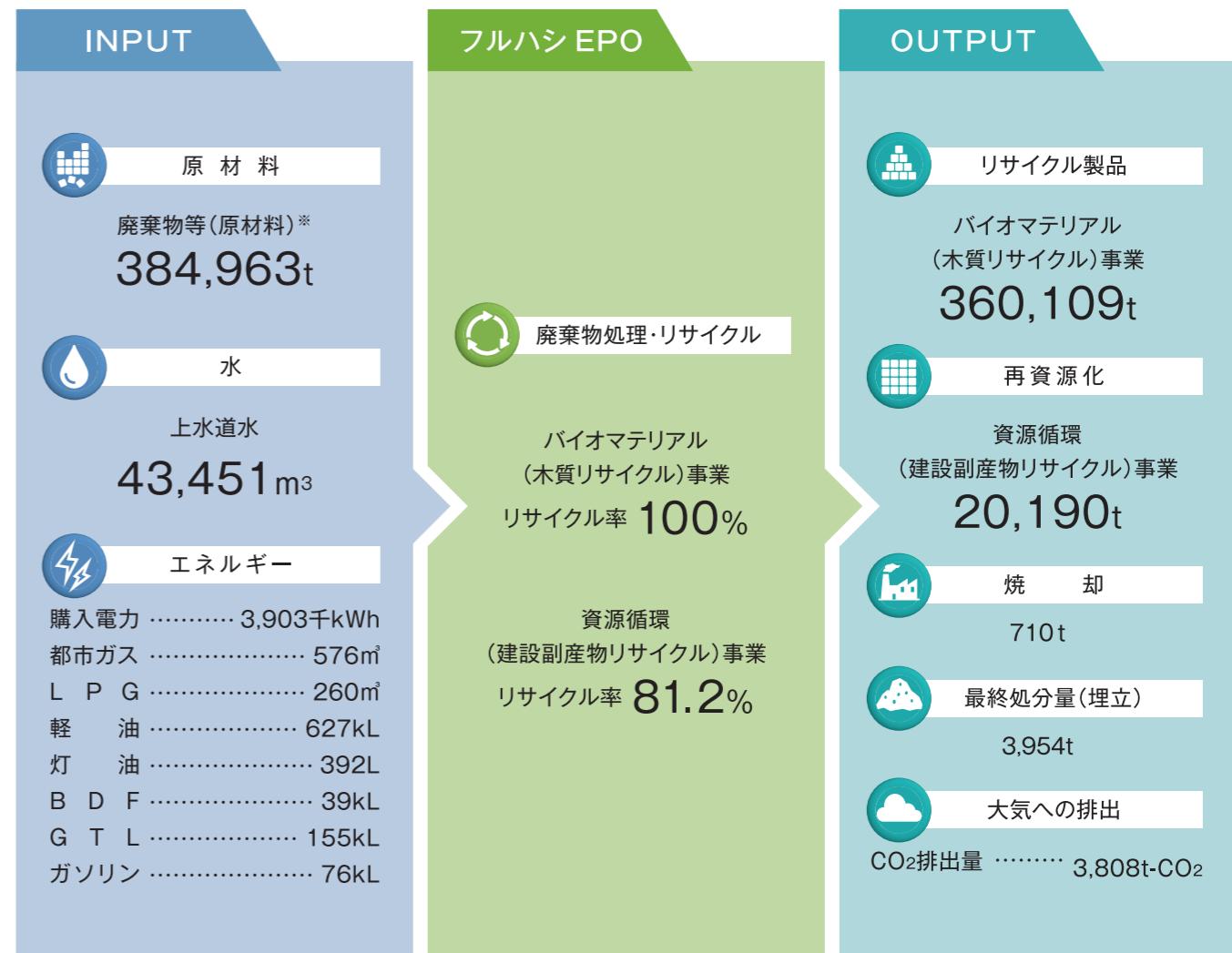
2018年度EA21の更新審査が行われました。書類審査に加え、全16拠点内の5拠点では現地審査も行われま

した。その結果、全拠点の認証を継続することができました。

## 事業活動にともなう環境負荷の全体像

当社では、事業活動にともなう原材料、資源やエネルギーなどの利用量および環境負荷量を、INPUT→OUTPUT(インプット・アウトプット)データとして把握し、さらなる環境負荷低減、リサイクル率の向上に向けて様々な取組みを進めています。

よりグリーンな経営、生産活動を目指すことを環境方針に掲げ、各拠点において「上水道水の使用量削減」や「ムリ・ムダ・ムラの削減」「省資源・低エネルギー化」を推進し、環境活動を行っています。



\* 廃棄物等を入荷し、チップ化・選別などリサイクルして出荷した量をINPUTとみなしています。

\*\* 2018年度にグループ会社であった(株)グリーンランド(現 広島工場)およびフルハシバイオ(株)(現 湘南工場)のデータは含まれておらずません。

## 2

## 環境報告

## 環境に関する取組み

様々なステークホルダーと連携し、環境活動を展開しています。

あいち CO<sub>2</sub> 削減マニフェスト

あいちCO<sub>2</sub>削減マニフェストは、参加する主体事業者の自主的な取組みを促すことを基本とし、あいち地球温暖化防止戦略の重点施策25項目に関して、事業者自身が「マニフェスト（宣言・公約）」を作成し、愛知県に提出するものです。それを愛知県が認証・登録し公表することにより、参加

事業者の環境活動を広く社会にPRとともに、他事業者や他の地域への展開が期待されます。

当社は2015年に認定され、「CO<sub>2</sub>削減目標：木質リサイクルチップ出荷量(t)あたり、2020年度までに2011年度比50%削減」を目標に掲げ、取り組みを進めています。

あいち CO<sub>2</sub> 削減マニフェスト

## eco 検定の取得

eco検定とは東京商工会議所および各地の商工会議所が主催している環境教育の入門編の検定試験であり、「自然環境」や「環境と社会・経済の関係」など、環境に関する基礎知識を身につけることが可能です。

当社は全社員合格を目指しており、グループ会社の株式会社フルハシ環境総合研究所による対策講座も実施しています。2018年度は6月23日、7月8日および12月2日に対策講座を開催し、あわせて54名が受講しました。



## 環境安全大会

フルハシEPOグループの安全・環境意識の向上のため、2019年2月に環境安全大会を開催しました。

大会では愛知県から講師をお招きし、「エコモビリティライフ」推進の

取組みについて」と、「愛知県の地震防災対策について～地震被害予測調査結果と第3次あいち地震対策アクションプラン等について～」をテーマにご講演いただきました。

## 優良産廃処理業者認定制度

優良産廃処理業者認定制度とは、通常の許可基準よりも厳しい基準に適合した優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が審査して認定する制度です。審査にあたり、違法性や事業の

透明性が高く、環境に配慮した事業活動を行っており、財務内容も安定していることが求められます。当社も現在、認定に向けて準備を進めています。

## 未来への挑戦

次の柱となる環境事業を目指す3つのプロジェクトを推進しています。国内の森林資源を有効活用する「グリーン・ジャパン・プロジェクト」、海洋バイオマス開発を行う「ブルー・オーシャン・プロジェクト」、有機栽培に挑戦する「オレンジ・サン・プロジェクト」についてご紹介します。



## ● グリーン・ジャパン・プロジェクト (GJP)

植林から約45年を経て、木材は住宅建材などの幅広い分野で長きに渡り私たちの生活を支えた後、木質バイオマスとして、当社の工場で再資源化(リサイクル)されます。様々な資源に有効活用され、最終的には大気中へCO<sub>2</sub>として排出され、木々や植物の光合成の過程で吸収されます。

GJPでは、木質バイオマスの川上から川下まで、そして炭素循環に至るまで、国内に眠る森林資源の有効活用(カスケード利用※・リサイクル・付加価値化)に挑戦しています。

※資源やエネルギーを利用すると品質が下がるが、その下がった品質レベルに応じて何度も利用すること。



## ● ブルー・オーシャン・プロジェクト (BOP)

日本の領土面積は38万km<sup>2</sup>ですが、海で囲まれた日本の排他的經濟水域(EEZ: Exclusive Economic Zone)は、領海を合わせて世界第6位の447万km<sup>2</sup>にもなります。

この広大な海洋を有効利用することにより、大規模なバイオマス生産が期待

されます。当社は持続可能な社会の創造をテーマに、海洋バイオマス開発に取組んでいます。海洋バイオマス生産およびその有効活用(食糧・資源・エネルギー・工業原料・医薬品など)を目指して研究開発しています。



海洋深層水を活用した海藻陸上養殖試験

## ● オレンジ・サン・プロジェクト (OSP)

農業に限らず、林業、水産業の1次産業において、従事者は高齢になり、後継者問題を抱えています。農地では「耕作放棄地」が目立つようになってきました。当社では、耕作放棄地を再び開墾し、無農薬・無化学肥料の有機栽培に挑戦しています。また次世代

の新農業研究にも挑戦しています。「always ecology, forever healthy」の理念のもと、地域の皆様と、日本の食文化・風習を体験とともに、安心・安全な食の確保の大切さを学んでいただく機会づくりにも取組んでいます。



無農薬・無化学肥料栽培のお米（イセヒカリ）

1  
社会性報告

## 地域社会とのかかわり

各種協賛や寄付などを通じて、地域社会への貢献を積極的に推進しています。

## 全国植樹祭への協賛

全国植樹祭は、森林・緑に対する国民の理解を深めるために、公益社団法人国土緑化推進機構と都道府県の共催により開催される行事です。

当社は、2019年6月2日に愛知県森林公園にて開催された「第70回全国植樹

祭あいち2019」の会場整備などに使用する間伐材チップ583万円相当を協賛しました。2018年3月16日にはこの協賛に対する感謝状の贈呈式が執り行われ、当社を代表し、山口社長が愛知県大村秀章知事より感謝状をいただきました。



感謝状の贈呈式

## フルハシEPO田植え祭

耕作放棄地を再開墾し、無農薬・無化学肥料の有機栽培に挑戦する当社の「オレンジ・サン・プロジェクト」の一環として、2018年5月26日、第8回フルハシEPO田植え祭を阿久比町農地にて開催しました。

清々しい快晴の空のもと、豊穫を祈祷いただいた後、手植えによる田植えを

行いました。手植えを懐かしむ農家の方や農地周辺の方々の訪問やご協力もあり、地域とのコミュニケーションを育むことができました。

今後も地域の皆様ともに、日本の食文化や風習を次世代へ引き継ぐお手伝いをするとともに、安心・安全な食の確保の大切さを伝えています。



田植えの様子

## 災害義援金の寄付

2018年9月に発生した平成30年北海道胆振東部地震をうけて、当社および社員有志から20万円を北海道災害義援金募集委員会へ寄付しました。

また、2018年6月末から7月初旬にかけて発生した平成30年7月豪雨をうけて、当社および社員有志より50万円を広島県・広島市に寄付しました。



平成30年7月豪雨 広島県・広島市への寄付

## 藤前干潟の清掃活動

藤前干潟は日本最大級の渡り鳥の飛来地として知られており、2002年に国際的に重要な湿地を保全する「ラムサール条約」に指定されています。

当社は藤前干潟の清掃活動に参加しており、2018年度は10月25日に実施

しました。環境省や愛知県職員を含めて約70名が約2時間かけてごみを拾い、燃えるごみ約1.7t、燃えないごみ約1.4t、その他のごみ(タイヤ、浄化槽、冷蔵庫他)約1tを撤去しました。



ごみの撤去作業

2  
社会性報告

## 社員とのかかわり

社員の健康や安全は重要な経営源であるととらえ、様々な取組みを展開しています。

## 健康宣言チャレンジ事業所に認定

当社は、全国健康保険協会(協会けんぽ)愛知支部と名古屋市が取組む健康宣言「Wチャレンジ宣言書」を提出し、平成30年度健康宣言チャレンジ事業所に認定されました。

当社は、社員とその家族の健康増進に積極的に取組むことで、生産性(企業利益)の向上、企業価値の向上につな

がる考えています。

全社員が健康診断を受診することはもちろんのこと、社員を支える家族(扶養配偶者)の健康診断の受診を促進し、受診後のフォローも行っています。



平成30年度 健康宣言チャレンジ事業所認定証

## 全社一斉防災訓練

当社は毎年9月に全社一斉に防災訓練を実施しており、2018年度は9月3日に行いました。

実際の災害・火災を想定し、各工場・事業所などの防災・防火訓練計画、マニュアルに沿って、事前に自己の防災担当の確認をし、当日は集合や避難、消火などを要した時間を計測しました。また、防災設備や非常用備品の点検、緊急連絡網の

確認などもあわせて行いました。

実際の災害時に冷静さを保ち、自分の役割を果たすためには繰り返し訓練を実施し、行動として身につけることが重要であると考え、今後も緊張感をもって訓練を継続していきます。



飛島リサイクルパーク 消火訓練



セントラ事業所 消火器の点検

## ルーキーキャンプ

2018年6月9日に、入社1~2年目の社員を対象に毎年恒例の社員研修「ルーキーキャンプ」を開催し、本社地区15名、関東地区10名がそれぞれ参加しました。

本社地区では愛知県知多郡美浜町の「食と健康の館」にて塩づくりを体験、「浜焼き王国」にてバーベキューの後に、CEPO半田バイオマス発電所にてヤマ

ザクラの植樹を行いました。

関東地区では、「神奈川県立あいかわ公園・工芸工房村」にて藍染を体験した後に、ジャパンバイオエナジー株式会社にて大島桜を植樹しました。

社員同士の交流を深めるとともに、植樹を通じて、木を扱う企業としての責任を改めて考え、植樹した桜とともに社員の成長を願う機会となりました。



藍染体験

## 会社概要

### Company's Outline

- 社名 フルハシEPO(フルハシイーピーオー)株式会社
- 創立 1947年12月
- 設立 1948年2月
- 資本金 3億1,000万円
- 役員 代表取締役社長 山口直彦  
代表取締役副社長 山口昭彦
- 本社 愛知県名古屋市中区金山1丁目14番18号 A-PLACE金山6階
- 従業員数 250名
- 事業内容 木質バイオマス・プラスチックリサイクル、建設副産物リサイクル、各種物流機器の製造販売、ヨガスタジオ

建設業許可 愛知県知事許可(般-31)第105504号  
 産業廃棄物処分業許可 愛知県・豊田市・三重県・静岡県・岐阜県・千葉県・千葉市・神奈川県・広島市  
 産廃収集運搬業許可 愛知県・三重県・岐阜県・滋賀県  
 一般廃棄物処分業許可 春日井市・豊田市・武豊町・弥富市・清須市・川越町・掛川市・千葉市  
 古物商許可 神奈川県 第451380005380号(平成22年1月12日)  
     千葉県 第441010002368号(平成24年8月30日)  
     愛知県 第541191300500号(平成25年7月9日)  
     広島県 第731291400036号(平成26年12月3日)  
     静岡県 第49122A000003号(平成28年7月14日)



## ネットワーク・拠点

### Business Sites

#### 愛知県



#### 日本



#### 海外

FULUHASHI CORPORATION (VIETNAM)LTD.

FULUHASHI CORPORATION (THAILAND) LTD.

